

平成26年4月8日（火）に、第5次枚方市総合計画の策定に向けて、「第6回枚方市まちづくりワークショップ」を開催しました。

第6回は市民等20名の参加で、3つの班に分かれて「子どもを育み、学び続けるために」をテーマに話し合い、様々な意見・提案が出されました。（※参加人数の関係により今回はA、B、Dの3班で実施）

【当日の流れ】

- ◇前回のワークショップだよりの確認
- ◇ワークショップの進め方の説明
- ◇ワークショップ（班別）
 - テーマ「子どもを育み、学び続けるために」
 - ・班ごとに意見を出し合う
 - ・各班の発表を行い、全体で共有する
- ◇今後の進め方の確認



※左からA班、B班、D班、全体のワークショップのようす

各班から出された主な意見【テーマ「子どもを育み、学び続けるために」】

○「生きていく力を育む教育」を

～学校・家庭・地域の連携が大切～

全班に共通して、子どもたちの生きていく力を育むべきとの意見が出され、社会や自然を感じる体験学習や障害を持つ子も持たない子も共に学ぶことなどが大切で、コミュニケーション力を養う必要があるとの意見が出されました。そのためには、学校・家庭・地域の連携が必要で、家庭教育・親教育の重要性や、高齢者や大学生など地域ぐるみで子育てに関わることの大切さについて意見がありました。

○「安心して産み育てられるまち」に

安心して産み育てられる環境を整備するため、保育所の拡充により待機児童をなくすことや、男性が子育てしやすい環境づくり、若い夫婦が生活しやすい住環境の整備などが必要との意見が出されました。

○「世代に関わらず誰でも気軽に学べるまち」に

全班に共通して、あらゆる世代の方が、身近なところで気軽に学習でき、生涯、生きがいを持って学び続けることのできる環境づくりが必要との意見が出されました。そのために必要なこととして、生涯学習市民センターや学校図書館の有効活用、大学との連携、歴史文化資料館などの設置のほか、学びの場の広報・PRの充実などの提案がありました。

○「誰もが楽しくスポーツができるまち」に

誰もが楽しくスポーツできる場をつくる必要との意見が多く出され、新たに参加する方が参入しやすい仕組みをつくることや、種目の重点化などにより、世界に通用する選手を輩出できるようなまちになればとの意見がありました。

次のページより、各班（A、B、D班）で出された意見・提案内容の詳細です。

こうなったらいいな	現状・課題	そのために必要なこと
<p>安心して産み育てられるまち</p> <p>*若い人（女性、男性）が安心して子どもを産み育てられるまち・環境</p> <p>社会を学べる教育</p> <p>*勉強だけでなく社会を学べるシステム</p> <p>障害を持つ子も持たない子も共に育ち、共に学ぶまち</p> <p>競い合うのではなく、助け合い・協力することを芯にした豊かな子育て・教育</p> <p>*落ちこぼれても大丈夫なシステム</p>	<p>*親がしかり方を知らない</p> <p>*人付き合いの中で本音を話せない</p> <p>*仲間同士でも子どもを注意できないなど気を使い過ぎ</p> <p>*子どもに厳しくする場面が必要</p> <p>*子どもたちが、家庭の中で生活のことをあまり学べていない現状がある。（例えば、ペットボトルのお茶ばかり買っているため、茶葉・お湯を急須に入れてお茶を出すことなどを知らない子どもがいる</p> <p>*許容が小さい（虐待など）</p> <p>*個性を尊重といいながら同一性が重んじられている</p> <p>*昔は、普段の生活の中で自然に生きる力を教育されていた</p>	<p>○親を育てる教育</p> <p>*子どもを育むには親の教育が大切</p> <p>*親になる前から親になる教育が必要</p> <p>*親に対して学校の毅然とした対応が必要</p> <p>○“生きていく力”をつけるための教育（学校・家庭）</p> <p>*今、学んでいることが生きていく力につながっていることを教える教育</p> <p>*家庭の教育があつて、学校の教育がある</p> <p>*卒業して学校に守られなくなっても学べるような、集える場が必要</p> <p>○多様な選択肢が持てる教育</p> <p>*人生にはいろいろな道があるから楽しいと思える教育、職業</p> <p>*引きこもりや不登校になっても学びなおしが容易な制度</p>
<p>地域を含めた教育</p> <p>*他人の子どもにも関心を持つまち</p> <p>*子育てにご近所さんが一緒に関われるまち</p>	<p>*子どもを過剰に守る方向に向かっている（社会全体で過保護になっている）</p> <p>*気軽に相談できる場がない</p>	<p>○地域に開かれた子育て・教育の場</p> <p>○子育てと生涯学習をリンク</p> <p>○気軽に学べる場所・集う場所</p> <p>*ふらっと集まれる場所</p> <p>*テーマに沿ってみんなで集まって話せるような場所</p> <p>*相談できる場所</p> <p>*各校区に1箇所程度あるとよい</p> <p>*学校図書館の活用</p> <p>*空き教室があれば活用する</p> <p>*新しい箱物は不要</p> <p>*人の集まるフリースペースやカフェの一つとして活用</p> <p>*学校施設の活用は防犯上の問題あり</p>
<p>生涯学習</p> <p>*社会に出た若い人も気軽に学べる場所</p> <p>生涯学習に身近なところでふらりと参加できるまち</p> <p>みんながスポーツに参加できる体制</p>	<p>*サークルはあるが、参加しづらい</p> <p>*学校図書館は和むスペースだが、子どもが利用できる開館時間が短い</p>	<p>○生涯学習で収入を得る仕組みがあればよい（身につけた技能を生かして）</p> <p>*学んだことを収入に結び付けたい、やりがいに繋がりたい</p> <p>○社会人が身近に学べる場所（寺子屋、小学校）</p>

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「安心して産み育てられるまち」、「社会を学べる教育」「地域を含めた教育」「生涯学習」があげられた。
- 安心して産み育てることができ、社会を学べる教育を進めるためには、障害を持つ子も持たない子も共に育ち学ぶ環境づくり、競い合うだけでなく助け合い協力することの大切さや生きていく力を身につける教育が必要で、そのためには、家庭の教育（親の教育）が重要との意見が出された。
- 地域を含めた教育に関しては、近所の人たちが子育てと一緒に関わるような環境づくりが大切で、地域に開かれた子育て・教育の場づくりを進めるべきとの意見があった。
- 生涯学習については、社会に出てもあらゆる世代の方が身近なところで気軽に学習（相談やスポーツも含む）できる・集える場所を確保することが必要で、その1つとして学校の図書館などを活用することなどの提案が出された。また、学習により身につけた技能を生かして収入が入る仕組みがあれば、やりがいに繋がるのではとの意見もあった。

B 班

テーマ『子どもを育み、学び続けるために』

こうなったらいいな	現状・課題	そのために必要なこと
待機児童をゼロに! *幼児を増やす(人口減の防止)		○官民(特に官)の育児所の増設 ○安心して育てることのできる環境整備 *建物の防災対策等
コミュニケーションがとれる子どもを育むまち *たくさんのお会いがあり、感性豊かな人になれるまち *自殺等がなくなるように、コミュニケーションの上手な子どもが育つまち *いじめのない、みんな一緒に楽しく学べるまちにならばいい	*小学校(45校)が多いということにはメリット、デメリットがある。一斉に取り組む場合に予算が必要となる一方、地域ごとの取り組みがやりやすい *地域の活動に子どもが参加しても親は出ない *家でしつけができていない。親を育てないと子育てができない *先生は親への対策が必要になっており、子どものことは二の次、三の次になっている	○学校で親と子が学べる場があればいい ○学校教育の充実 *民間からの校長の登用 *6・3・3の教育内容の割り振りの検討 *土曜日に授業をして、学力低下を防ぐ ○誰でも教え、学べる学校をつくる *年齢、障害の有無に関係なく誰でも教え、学べる学校 *障害のある子と一緒に学ぶ→思いやりで、いじめがなくなる *官民交流：平日の授業に企業の人を呼ぶなど *福祉の視点、心の学習の視点が必要 ○生涯学習と学校のリンク *土曜日学習の利用。毎週いろいろな人が教える。企業や地域の方、大学生
国際人の育成(スポーツなど) *世界一の選手がたくさん輩出されるまちにならばいい *オリンピック種目を重点に人材を投入するまち	*スポーツ選手、技術を持った人が育成に携われていない	○楽しくスポーツができる環境づくり *いつでもどこでも誰でも一緒に楽しくスポーツができる場づくり *スポーツに力を入れてほしい。予算の充実 ○スポーツ種目の重点化・特化 *ラグビー、レスリングなど
誰でもどこでも学べるまち *すべての市民が、生涯で喜びと生きがいを持って学び続けることができるまち *定年後も学習したくなる環境づくり *歴史文化遺産を保存するとともに、これに関する情報発信と教育面での取組み策を積極的に推進するまち	*生きがい、生涯学習にどこから手をつけたらいいかわからない *生涯学習市民センターはあるが、具体的にどう活用していくか	○大学との連携 *大学の講義を受けられるようにする。門戸を開く *行政と大学が協同して生涯学習プログラムを作る ○子どもたちに教える人材としての高齢者の活用 *高齢者との交流 ○身近に目標を持てるような教育 *スポーツなどの技術の継承 *スポーツ選手など(OB、OGでもいい)プロ級の選手に教えてもらう機会づくり ○学びの場の情報発信 *ホームページ、広報などで学べる場のPR、ポータルサイト ○図書館の利用度を高める ○歴史文化民俗資料館のような施設をつくる *検討中の総合文化施設整備計画に組み入れるのも一策 *施設をつくるのではなく、学校を活用して、学校の中につくるのもおもしろい

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「待機児童をゼロに!」「コミュニケーションがとれる子どもを育むまち」「国際人の育成(スポーツなど)」「誰でもどこでも学べるまち」があげられた。
- 待機児童ゼロに向けては、人口減を防ぐためにも施設の防災対策など安心して子育てできる環境整備が大切で、官民(特に官)による育児所(保育所)の増設が必要との意見があった。
- コミュニケーションがとれる子どもを育むためには、地域の高齢者や大学生、企業の人子どもたちに教える機会をつくることや、障害のある子と一緒に学ぶこと、家でしつけができる親を教育することなどが重要で、いじめや自殺のない環境をつくるのが大切との意見が出された。
- スポーツなどの国際人の育成については、いつでもどこでも楽しくスポーツができる環境をつくるべきで、スポーツへの予算化・種目の重点化などにより、スポーツのみならず世界に通用するような人材が輩出できればよいとの意見があった。
- 誰でもどこでも学べるまちについては、生涯、生きがいをもって学び続けられるよう、大学と連携した講義の開催や歴史文化民俗資料館などの設置のほか、学びの場について効果的な情報発信が必要との意見があった。

D 班

テーマ『子どもを育み、学び続けるために』

こうなったらいいな	現状・課題	そのために必要なこと
子育て支援や子育て環境が充実したまち <small>*子育てのための支援の仕掛けが充実したまち</small>	<small>*生涯学習市民センターでは、障害者関係団体や保育・育児活動、音楽や料理活動など活動内容によって優先的に予約できる部屋がある</small> <small>*育児休業を取りやすくする必要がある</small> <small>*子育てサロンなど学生が手伝えるか→1~1.5歳児の子育て支援ができるので、大学生も参加してほしい</small>	○高齢者と子育て世代・子どもとの交流促進 ○保育所の拡充 <small>*待機児童を減らし、女性の社会参加を促す</small> ○男性の子育て推進 <small>*夫婦で協力できるように。育児のプチスクール開催</small> ○若い夫婦が生活しやすい住環境づくり <small>*府営住宅など</small> ○大学生との連携（子育てサロンなど）
0歳児からコンサートなど楽しめるまち	<small>*小さい子どもがいる場合、コンサートなどの予約を取ることが難しいが、実際には多くの人が参加できている</small>	○子ども主体のイベントづくり <small>*マーケット開催。子ども主体でお弁当づくりなど</small> ○小さな子どもがいる人も参加できるコンサートで交流を広げる
小中学生が自然に親しみ楽しめるまち		○農林水産業の体験授業カリキュラム設置 <small>*臨海学校、林間学校の復活</small>
子どもが元気で活気のあるまち	<small>*安心して遊べる場所が少ない</small> <small>*スマホやゲーム以外に楽しい遊びを伝えることが大切</small> <small>*防犯上の安全確保が必要</small>	○子ども主体の異文化交流・世代間交流促進 <small>*例えば、「英語×クッキング、スポーツ、読み聞かせ」など</small> ○子育てと生涯学習の連携 <small>*子育て世代も楽しめる生涯学習のメニューづくり</small>
子どもの健全育成ができるまち（学校、地域、家庭）	<small>*しつけ、虐待の問題</small> <small>*モンスターペアレント問題で学校が閉鎖的になっている</small> <small>*親の教育が必要、そのサポートも必要</small> <small>*先生のサポートも必要</small>	○体験学習の充実 <small>*例えば、作物を作るところから食べるところまでの体験（田植え～餅つき）、動物を育てるところから食べるまでを体験など</small> ○大学生との連携（枚方子どもいきいき広場など） <small>*親でも先生でもない人が参加するとよいのでは</small>
老若男女誰もが楽しめる生涯学習のまち	<small>*「広報ひらかた」で趣味サークルの情報は出されているが、誰でも参加できるのかどうかかわりにくい</small>	○生涯学習市民センターの充実 <small>*利用しやすく、様々なテーマの学びができるようにする</small> <small>*小学生とシニア世代の交流（囲碁など）</small> <small>*テレビなど話し合いのきっかけづくりが必要</small> <small>*新たに参加したい人が参加しやすくする</small> ○広報の充実 <small>*誰でも参加できる情報をもっと充実する</small>
老若男女誰もがスポーツを楽しめるまち	<small>*スポーツをする場が少ない</small> <small>*すでに参加している人はいいが、新規参入しにくい</small>	○気軽に参加できるスポーツの場づくり <small>*必要な時に身近で行政サービスが受けられるように</small>

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「子育て支援や子育て環境が充実したまち」「0歳児からコンサートなど楽しめるまち」「小中学生が自然に親しみ楽しめるまち」「子どもが元気で活気のあるまち」「子どもの健全育成ができるまち（学校、地域、家庭）」「老若男女誰もが楽しめる生涯学習のまち」「老若男女誰もがスポーツを楽しめるまち」があげられた。
- 子育て支援や子育て環境の充実に向けては、高齢者と子育て世代・子どもとの交流促進、保育所の拡充、男性の子育て推進、若い夫婦が生活しやすい住環境づくり、大学生との連携などが必要との意見があった。
- 子どもを育むためには、0歳児からコンサートを楽しめることや体験学習により自然と親しめる環境づくり、安全に遊べる場の確保、異文化交流・世代間交流の促進など、学校・地域・家庭が連携した子どもの健全育成が必要との意見が出された。
- 誰もが生涯学習やスポーツを楽しめるまちに向けては、新しく参加する人が利用しやすく様々なテーマの学びができるような生涯学習市民センターの充実、参加できる情報を効果的に発信する広報の充実のほか、気軽に参加できるスポーツの場づくりが必要との意見が出された。



※上段左からA班・B班、下段左D班のワークショップの発表内容

ふりかえりシートより

主な意見・感想を紹介します。

【意見・感想】

- 今回のテーマは問題点が広く事前に調べにくかった。
- 議論の中心が細部に入りすぎて、意見を取りまとめる難しさを感じた。
- 話が弾み、互いの意見が出て大変おもしろかった。
- 参加者が少なくて残念だった。参加しやすい開催日時を考えてもよかったのではないかな。
- グループディスカッションに不慣れだったが、徐々に自分の意見をまとめて言うことができるようになってきた。
- 今回の「子どもを育み」と「学び続ける」という並列の課題で、「私が」というスタンスで考えてよかったのだろうか。
- 「子育てサロンで悩んでいる」という話が出たが、とても興味があり意見も出せた。子どもたちのことを考えるより親のことを考えないといけないという点にとっても関心を持った。
- 基本は家庭のしつけ・教育ではないかと思う。
- 高齢化が進む中、生涯学習で得た技能、知識が地域の役に立ち、高齢者の収入につながれば良いと考える。

- 地域には子どもたちの教育に関わりを持てる人材がたくさんいるため、そういった人たちとどう結び付けていくかが課題。
- 個々の状況にあった組織や施設を見つけるきっかけや人脈がもっと広がれば良いと思う。
- 今回のようなテーマでは、子どもや障害のある方などの意見を聞いてもいいのではないかな。
- 子育て真っ最中のママやパパがいたら、また違う意見が出たと思う。
- 教育について問題点は指摘できるが、対応策となると非常に難しいように感じた。
- 第7回のイメージがわからないので、分かりやすく示してほしい。今後も市民参加の会議やワークショップでは、具体的に分かりやすく、イメージできる言葉を使ってほしい。

【編集・発行】枚方市 政策企画部企画課

TEL : 841-1254 (直通)

FAX : 846-5341

Email : kikaku@city.hirakata.osaka.jp